在宅医療のしくみづくりを急げ

吉川三津子議員

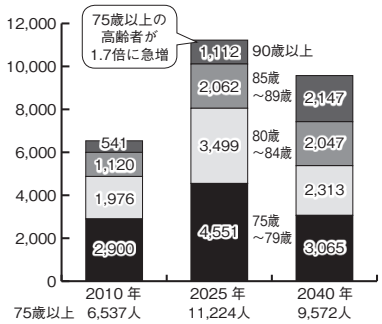
質問

2025年、団塊世代が75歳以上の高齢者の仲間入りをし、当市でも、75歳以上が今の1.7倍にふくらむ(グラフ参照)。

現在、津島市民病院、海南病院、あま市民病院の合計ベッド数は約1千200床であり、約8割の方が病院で最期を迎えられている(全国平均)。

しかし、2025年には、病院のベッド不足により、350人分の在宅での最期のみとりのしくみが必要になる。

昨日、海南病院で講座があり、医師からは「みとり難民、医療難民」という言葉で、在宅医療のしくみづくりが急務であるとの話があった。市は認識があるか。



愛西市75歳以上の人口高齢者推計

市民生活部長

厚生労働省が、最期のみとりの場所を確保する必要が出てくるとの推計を出している。市も国と同じ状況になるという想定は持っている。

質問

市内まで来て頂け、24時間のみとりに対応している医院は少ない。今後、医師会や病院などと連携して在宅医療のしくみを作っていくべきでは。

市民生活部長

現状の体制で、在宅医療や在宅介護者を増やすのは困難だ。今後は関係機関と連携していく必要がある。

質問

八開診療所を、市の在宅医療の拠点にしてはどうか。

市長

現状のままではいけないとは考えている。今後はよりよい方向に行くよう努力する。

れんこん給食でアレルギー改善を

質問

昨日、NHKのあさイチで「れんこんの底力」という番組があった。免疫学の医師によると、れんこんに含まれる成分が喘息などのアレルギーや脂肪肝に効果があり、毎日20g(1切れ)を3ヶ月食べると効果が出るとの内容だった。

以前、喘息罹患率の高い学校や学年もあったが、モデル校を設定して一日20gのれんこんを使った学校給食を実施してはどうか。月あたり5万円の材料費で実現できるが。

教育長

栄養のバランスを考えると困難。毎日食べさせられたられんこん嫌いをつくる。

質問

20gで栄養の偏りや偏食を言うのは見解として問題だ。私はまじめに提案している。

こうした楽しい企画がまちおこしになり、子どもや農業を元気にする。市長の考えは。

市長

特産品が使われ広がることは、市のPRにもなり、よいことだ。今回の提案は検討課題のひとつだ。

その他の質問

・放課後子ども教室の一方的な廃止は問題だ
・学校統廃合、児童減の問題への対応はどこまで進んだか
・自治基本条例の制定時期は